

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

# 横浜みどりアップ計画3か年の評価・提案 骨子案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2021 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2022 年 ○月

## 目 次

1	はじめに .....	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議 .....	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議 2021 年度の活動実績 .....	5
	(1) 2021 年度の活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③広報・見える化部会	
	④調査部会（現地調査）	
4	横浜みどリアップ計画 3か年の評価・提案 .....	16
	◆計画の体系	
	◆各計画の柱のハイライト	
	◆評価・提案の概要	
	(1) 計画の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む .....	21
	施策 1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策 2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策 3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 計画の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる .....	30
	施策 1 農に親しむ取組の推進	
	施策 2 地産地消の推進	
	(3) 計画の柱 3 市民が実感できる緑や花をつくる .....	38
	施策 1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進	
	施策 2 緑や花に親しむ取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開 .....	46
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿 .....	50
6	市民推進会議委員からのコメント .....	53
7	市民推進会議広報誌「Yokohama みどリアップ Action」(2021 年度発行分) ...	60

# 1 はじめに

進士座長による  
メッセージ

横浜みどりアップ計画市民推進会議  
座長 進士 五十八

## 2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議

### (1) 横浜みどりアップ計画

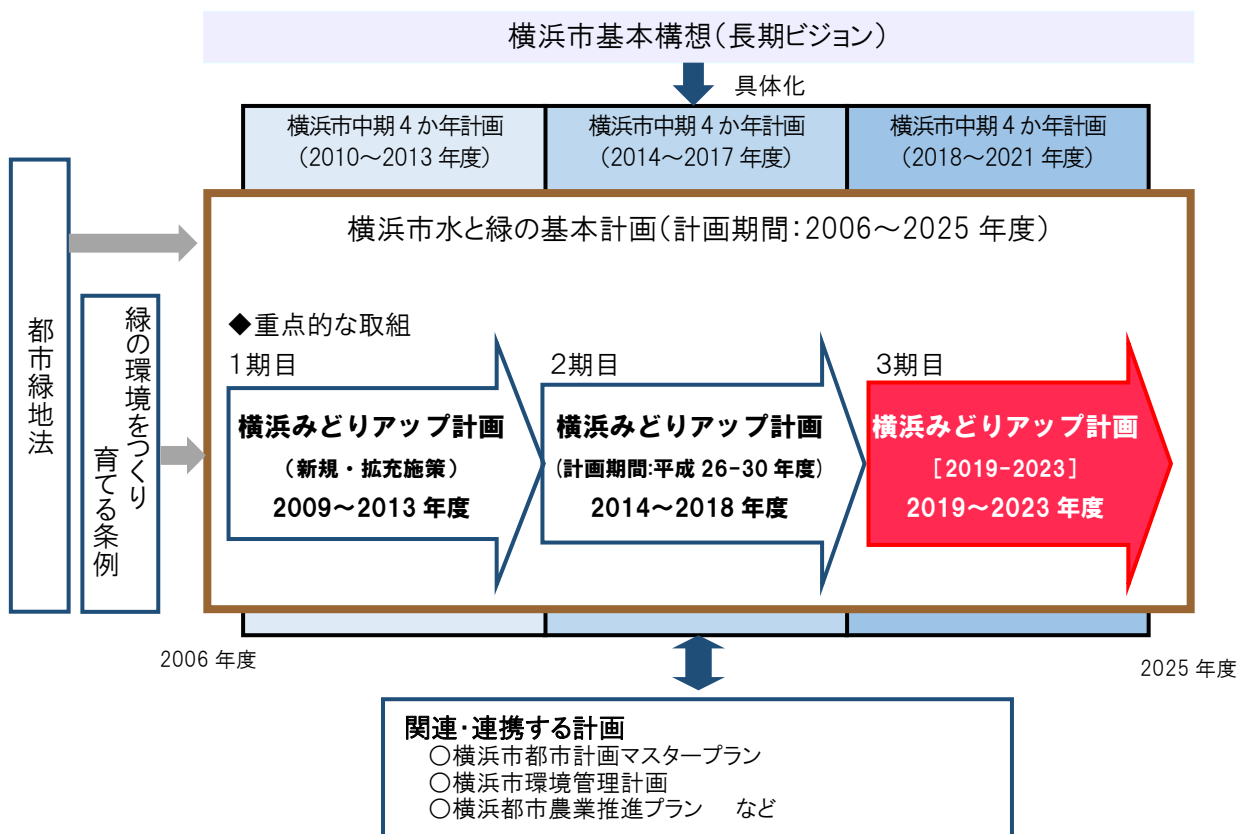
#### ①位置付け

横浜市は、大都市でありながら、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、また、起伏に富んだ地形から、変化に富んだ水や緑の環境を有しています。この緑の環境を生かし、次世代へ引き継いでいくため、市は2025年度を目標年次とした「横浜市水と緑の基本計画」を2006年に策定し、計画に基づき長期的な視点から「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。

1期目となる「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」は、2008年度までの取組を強化・充実するため2009年度から2013年度までの5か年の事業計画として策定されました。また、「横浜みどり税」は、取組を進めるための重要な財源として2009年度から導入されました。

緑の保全や創造は長い時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、2期目となる「横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)」が策定されました。

さらに、2期目の取組の成果や課題、市民意見募集結果などを踏まえ、3期目となる「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」が策定されました。



【図】横浜みどりアップ計画 [2019-2023] の位置付け



## ②横浜みどりアップ計画[2019-2023]の構成

2019年度より、3期目の「横浜みどりアップ計画」に基づき、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とし、5か年の目標を設定しました。目標の実現に向け、横浜みどりアップ計画では、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」「市民が身近に農を感じる場をつくる」「市民が実感できる緑や花をつくる」を3つの柱とした取組と効果的な広報を推進しています。

### 計画の理念 みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

#### 5か年の目標

##### 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など

##### 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全面積など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など

##### 3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

#### 計画の柱 1

##### 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

#### 計画の柱 2

##### 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

#### 計画の柱 3

##### 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。



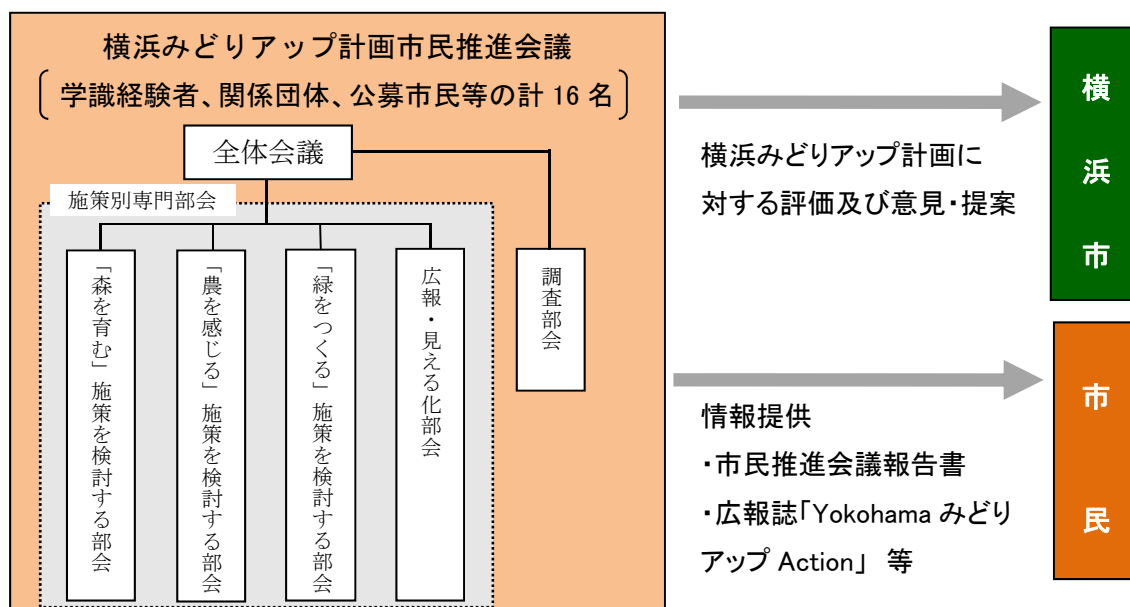
#### 効果的な広報の展開

## (2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、横浜みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民への情報提供等を行うことを目的として、2009年に設置され、2012年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や施策別専門部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価・提案を行ってきました。

横浜みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしており、3期目の横浜みどりアップ計画についても継続して活動することとなりました。

2019年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しています。(50頁に委員名簿を掲載)



横浜市附属機関設置条例第2条第2項本文：

附属機関(※)の担任する事務は、別表担当事務の欄に掲げるとおりとする。

別表(抜粋)

執行機関	附属機関	担当事務	委員の定数
(中 略)			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市域の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
(以下省略)			

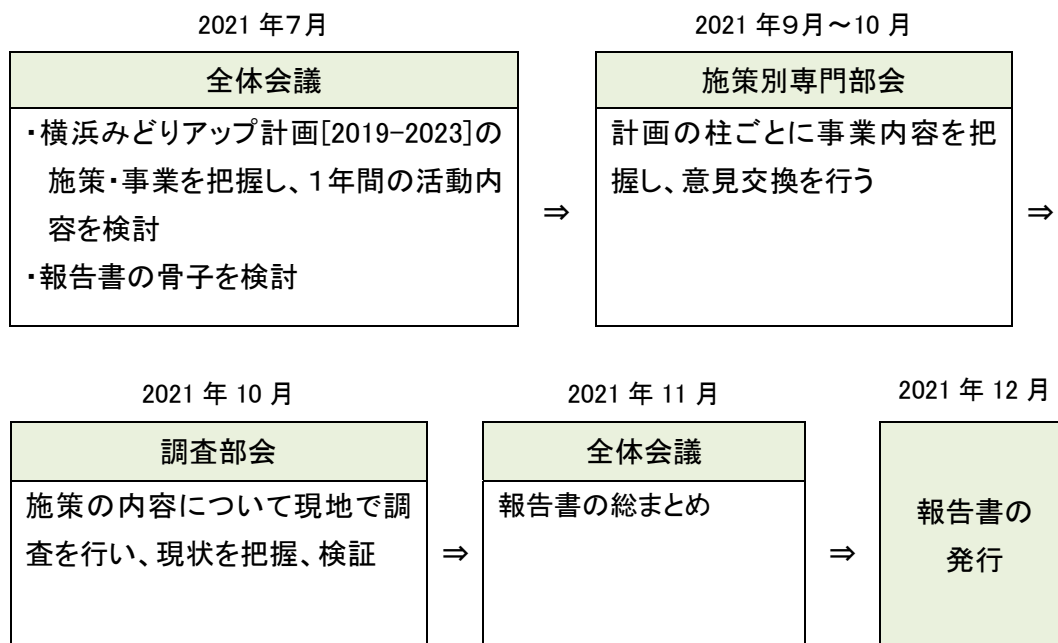
※附属機関とは、法律又は条例に基づき設置する機関で、市長等の執行機関の要請により、行政執行のために必要な審査、審議、調査等を行うことを職務とする機関。

### 3 市民推進会議 2021 年度の活動実績

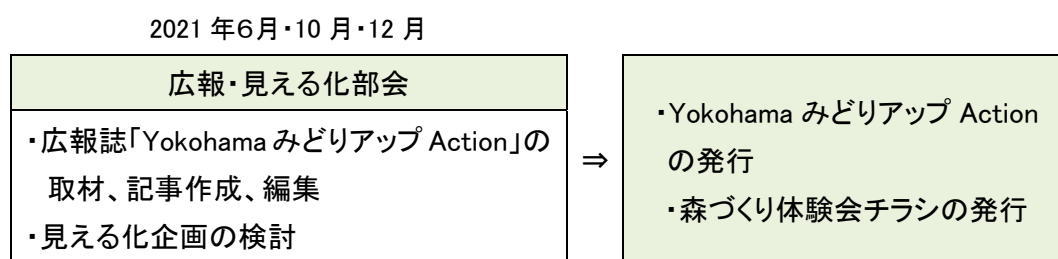
#### (1) 2021 年度の活動の概要

市民推進会議の主な活動は、「横浜みどリアップ計画に対する評価及び意見・提案」と「市民への情報提供」の2つです。

##### ① 横浜みどリアップ計画に対する評価及び意見・提案



##### ② 市民への情報提供



2021年度は引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策として、WEBを併用したりリモート会議の開催や飛沫感染防止のマスク着用、手指消毒の徹底をしながら活動に取り組みました。

## (2) 活動の詳細内容

### ① 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換を行いました。

#### 第 34 回市民推進会議(2021 年7月 12 日)

- ・横浜みどりアップ計画の進捗状況について
- ・市民推進会議 2020 年度報告書について



#### 第 35 回市民推進会議 (2021 年 11 月 26 日)

- ・横浜みどりアップ計画 2020 年度の事業実績について
- ・市民推進会議 2020 年度報告書(案)について
- ・市民推進会議 2021 年度の取組について

### ② 施策別専門部会

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに詳細に説明を受け、意見交換を行いました。

※2014 年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、「効果的な広報の展開」事業に対する評価・提案については、「広報・見える化部会」にて実施しています。

#### (ア) 「計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む」について

##### 第 14 回「森を育む」施策を検討する部会(2021 年 10 月6日)

- ・「森を育む」施策の評価・提案について



#### (イ) 「計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる」について

##### 第 14 回「農を感じる」施策を検討する部会(2021 年9月 28 日)

- ・「農を感じる」施策の評価・提案について



(ウ) 「計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる」について

第14回「緑をつくる」施策を検討する部会(2021年9月29日)

- ・「緑をつくる」施策の評価・提案について



### ③ 広報・見える化部会

2014年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、施策別専門部会として横浜みどりアップ計画の広報について評価・提案を行うとともに、横浜みどりアップ計画や横浜みどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集を行っています。

広報誌「YokohamaみどりアップAction」では、横浜みどりアップ計画の取組が進んでいる現場取材した上で、緑の魅力をいかに伝え、「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような内容とするために毎号議論を重ね、市民目線の現場レポートを作り上げています。2021年度は第5・6号を発行しました。駅及び主要な公共施設のPRボックスや、各区役所・土木事務所・公園緑地事務所等の公共施設で配布するとともに、市のホームページでも公開しています。

第47回広報・見える化部会(2021年6月30日)

- ・2021年度広報誌テーマ案について
- ・見える化企画案について



みどりアップ Action 第5号取材(2021年7月17日)

- ・テーマ：農園付公園(泉区 岡津町ふれあい公園)



みどりアップ Action 第6号取材(2021年10月2日)

- ・テーマ：地域緑のまちづくり(西区 みなとみらい21 新港地区運河パーク花時計)



第 48 回広報・見える化部会(2021 年 10 月 6 日)

- ・「効果的な広報の展開」事業の評価・提案について
- ・みどりアップ Action 第 5 号原稿案について
- ・見える化企画案について
- ・みどりアップ Action 第 6 号記事内容について



第 49 回広報・見える化部会(2021 年 12 月 15 日)

- ・みどりアップ Action 第 6 号原稿案について
- ・2022 年度みどりアップ Action テーマ案について



2021 年度に発行した「Yokohama みどりアップ Action」

○ YokohamaみどりアップAction 第 5 号

《発行月》 2021年11月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 農園付公園

(泉区 岡津町ふれあい公園)

**遊ぶだけが公園じゃない！野菜づくりをはじめませんか？**  
農園付公園の一つである「岡津町ふれあい公園」。大人から子どもまで楽しめる野菜づくりを通じた地域交流を紹介しています。お近くの農園付公園を探してみたいはかがでしょうか。



○ YokohamaみどりアップAction 第 6 号

《発行月》 2022年2月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 地域緑のまちづくり

(西区 みなとみらい21新港地区運河パーク花時計)

**脈々と受け継がれる花時計**  
みなとみらい地区の運河パークには花時計（日時計）があります。彩り豊かな花はどのように育まれているのか。「開国博 Y150」から続く歴史と地域の活動をご紹介します。



※報告書末尾に「Yokohama みどりアップ Action」を添付しています。

#### ④ 調査部会(現地調査)

##### <第21回調査部会>

日 時 2021年10月27日(水) 午後1時10分～午後4時45分

参加者 委員12名

調査場所 川和市民の森(都筑区)、  
田奈恵みの里 ハマッ子直売所「四季菜館」(青葉区)  
並木の再生 環状4号線(十日市場・霧が丘地区)  
若葉台もみじ花と緑推進会(旭区)

##### (ア) 森の多様な機能に着目した森づくりの現場を調査(川和市民の森)

都筑区西部に位置する川和市民の森を視察しました。



川和市民の森の概要を説明



散策路を徒歩で視察

##### <委員の感想や主な意見>

- よく維持管理されています。愛護会の皆さまの努力に感謝するばかりです。川和市民の森はとても美しい森と思います。
- 間伐などよく手入れされており、散策路も整備されて、良いと感じました。愛護会の皆様の努力があると思います。担い手づくりが課題かと思えます。
- 蚊が多かったので、驚きました。難しいところですが、利用する方、散策する方にとっても悩ましい存在のように感じました。スズメバチ、昆虫食にて活用したりできないものでしょうか。森として保全されることによって、地域の風景のアクセントにもなっていると思います。
- 良く整備されていて愛護会の皆様のご苦労と整備された後の達成感の笑顔が目に見えます。
- きれいな遊歩道が整備され、市のご担当者、また愛護会の方々がしっかりと森を維持管理されていると感じました。
- 市民の森は昔の里山と同じで、地域の方が利用しながら手入れをしていました。タケノコ掘り等のイベントで楽しく参加してもらえていて良かったです。若い人達が引継いで下さると良いのですが。

- コナラやクヌギなども多く、子供達との散歩コースには最適な印象を受けました。ただし、オオスズメバチの存在は、とても危険であり、巣の撤去だけではなく、女王蜂が出てくる春先からの対策、(捕獲器の設置)をお願いしたいと思いました。
- 愛護会の方達の維持管理の努力もあり、散策路もよく整備されており、タケノコ掘りなどのイベントも行われているとのことで、地域の方にも親しまれていると感じました。
- 川和駅から近く、非常にアクセスが良い場所に市民の森として樹林地が残ったことは良かったと思います。展望台があり、そこまでのアプローチを視察しましたが、市民の利活用の取組状況等を知るためには、休憩広場までの構成・整備の状況の視察が必要と思いました。市民の利活用の一つに広場は重要と感じています。
- 竹林が多く手入れも大変なのかなという印象です。大きな蜂の巣とスズメバチには驚きました。愛護会のメンバーも少ないということで、活動の維持のためにもメンバーが増えるといいと思います。
- 街を通り抜け電車から降りると駅前に管理された農地の中にこんもりとした森があり、懐かしい気持ちになります。森は散策道が整備され市民に利用しやすい立地です。木々の名前も標示されていたら楽しめると思います。
- クヌギや竹林等からなる雑木林で人の手が入った、川和町のシンボリックな森として存在感がある街なかの市民の森と印象を抱きました。しかも、その前の集団農地と一体的な田園環境としての存在が非常に貴重なのだと思えました。そのすぐ近くに駅があり、区画整理事業が行われている状況を考えても、これからの新しい川和地区にある地域資源を市民の森として確保、継承したことは大きな意義があることではないかと思いました。市民の森愛護会も、地権者型ではなく、里山の保全・継承に興味・関心を持つ住民が主体的に参加している。その方々がもっと広がっていくのを期待します。



(イ) 水田の保全・農景観を良好に維持する活動の支援現場を調査(田奈恵みの里 ハマッ子直売所「四季菜館」)

青葉区及び都筑区の一部に位置する田奈恵みの里を視察し、恵みの里事業の概要について説明を受けました。また、農産物直売所「四季菜館」の現場も視察しました。



恵みの里事業の概要説明



四季菜館内の視察

<委員の感想や主な意見>

- 水田保全に奨励金の交付(約 48%)が実施されているなど、農地保全に役立っている状況を説明して頂きました。
- 地産地消教室やイベント、加工など総合的に農の取組を進めているところが良いと思いました。
- これらの事業にどのくらい「みどりアップ計画」が貢献しているのが見えると効果検証にとって有益な素材(データ)になると思います。
- 新鮮野菜から花、植木、加工品などを見て回っているといろいろ購入したくなる品揃えで非常に良い直売所でした。
- 直売所の野菜等に多くの名前があり、積極的な取組が感じられました。恵みの里における次世代の子供たちとの関わりをもう少しお話しが聞ければ良いと思います。
- 恩田川が養分過多だとは知りませんでした。生産者の大変さを実感しました。若い方々に頑張って頂きたいです。
- 新鮮な野菜、季節感あふれる野菜を手にする恩恵を受けられる大切さを感じています。また食の恵みだけではなく、景観としての農の風景は、横浜で暮らす子供たちにも「原風景」として残ることでしょう。今後も大切にしていきたい農の姿と感じています。
- 田奈地区の圃場の様子を近くで確認できませんでしたが、農の散歩道にレンゲなど景観植物を栽培して、散策に来た方々が楽しんでいるとのこと。なお、レンゲを緑肥として田畑にすき込むことは殆んどされていないとのことでした。
- 市民と農を繋げる活動を体験やイベントを通じてきめ細やかにを行い、その機能を十分に果たす施設と思われました。

- 四季菜館では、加工所が設けられていることにより、生産物が加工品となって市場に出て、地産地消に繋がっている点が地域活性の基盤になっていると思われました。四季菜館での多種の加工品ほか、多くの市内の生産品も取り扱い地産地消の拠点の機能も果たしていると思われました。
- 歴史ある古い蔵を移転させて今の四季菜館になっているという、さらに震災の間に移動していたという話に驚きました。市内の JA 直売所の中で唯一あのような外観の建物であることがとても素敵だと思います。加工品づくりは農家の女性の活躍の場として積極的に進めていくとよいと思います。地元の穀物や野菜を使ったお惣菜や加工品は素晴らしいです。イベントにも参加してみたいと思いました。
- 十日市場農業専用地区は空いている田も見受けられましたが、水利の改修を進めて水田を潤して欲しいです。大草や雑木が育つと元に戻すのに労力がいらいます。
- 販売する農産物等が広く地域外から持ち込まれているとのこと、以前に比べると旧田奈農業管内の農業生産が後退しているのかと感じたところです。水田の奨励金がほぼ 100%使われており、体験水田の取組も根付いていることから水田としては継続的に受け継がれそうですが、直売所に並ぶ野菜や農産加工物に地場産のものが減るのは非常に残念です。  
旧田奈農協の農業倉庫を曳家して四季菜館にした意気込みにふさわしいように、新鮮な地場野菜等の販売が根付くのを願うとともに、おいしい茶饅頭、シフォンケーキ等の田奈ならではの食べ物がいつでも手に入る状況をどう作り出していくのが課題だと感じました。

(ウ) 街路樹による良好な景観の創出・育成現場を調査(並木の再生 環状4号線十日市場・霧が丘地区)

環状4号線の十日市場・霧が丘地区の老朽化した桜並木などの再生や空いている植栽枠への補植などを車窓から見学し、事業説明を受けました。

<委員の感想や主な意見>

○サクラ「ヨウコウ」の植替えの工夫は良いと思います。  
10年後の姿が楽しみです

○見事な桜並木だと思っていましたが、40年で植替えが必要となると大変だと思います。並木の維持を期待します。

○街路樹は市民が日常的に目にするものと思います。ただ日常的すぎるがゆえになかなか気にとめられないと思います。これがみどりアップ計画の事業だと知らない市民が多いと思います。何かしらの看板や掲示ができると良いと思います。

○大変な大工事となりますが、将来が楽しみです。



ヨウコウの植栽状況

- ソメイヨシノの根上がりの箇所が多く見うけられ、道の段差によるお年寄りや子供達の事故が心配でした。
- ソメイヨシノの植替えは大切です。ゆっくり大きくなる木も何十年かたてば、歩道におさまりきらなくなるので、ゆったりと道幅があると良いと思います。
- 横浜の緑区、青葉区、都筑区に住み続ける理由の一つとして、車で走る車窓からもいつも美しい樹木の緑が見ることができること、また春の訪れを感じられる桜の存在かと思えます。ソメイヨシノの桜を樹木管理の観点から、伐採せざるを得ない問題は各地で起こっているかと思えますが、近隣住民の方たちへの説明、状況を納得させる方法など、どのような形で行っているかという点も、気になる点でした。
- 市内のソメイヨシノの並木は、植栽から約 40 年になり台風などでの倒木リスクも増しており、衰弱した木から伐採し植え替えています。環状 4 号線沿いのこの地区もソメイヨシノより成長が遅く、耐寒性・耐暑性への環境適応力が高いヨウコウザクラに植え替えていました。
- 桜の更新で、街路樹に成長の遅い樹種、コウヨウが植樹されていることがわかりました。花の色がソメイヨシノとは違うようですが、樹種の選択は重要と思えました。
- 見事な花をつけていたソメイヨシノでしたが、老朽化して根元から 1 メートルほどで伐採し幹だけになっていました。そこから新たな芽が吹き、次世代の木にもなりそうでした。拝見した幹からは芽が吹き、再生するのかと思えました。
- 車窓から見ただけですが、桜の木は種類によってだいぶ大きさが違いました。春を象徴する桜の維持管理は大変だと思えますが、再生・保全を継続していただきたいと思えます。
- 桜並木の倒木にびっくりです。ヨウコウに更新していただいて、安心して桜をめどることが出来ますように。
- この地域の環状 4 号線の桜はソメイヨシノであったが、40 年が経過する中で、植栽マスの破壊、舗装面の根上がり等が多発しているのはよく耳にしていますが、ベッコウタケのような腐朽菌による衰弱も結構あるとのことはあまりよく知りませんでした。街路樹のソメイヨシノも 40 年もたてば腐朽菌で幹の中から衰弱するものも多く、樹木医の診断に基づき伐採しているとのことでした。  
街路樹は成長速度が速いソメイヨシノは不適で、成長が遅いヨウコウを更新植栽していること、ジンダイアケボノは病気には強いという利点はあるが、成長速度は比較的早いので、街路樹には不適であるとのことは、参考になりました。幹線道路の街路樹は、樹形といった景観面の側面だけでなく、時間軸を考えて植栽する必要があるというのは正直驚きました。

(エ) 市民と連携した緑のまちづくりに取組む現場を調査(若葉台もみじ花と緑推進会)

旭区若葉台で市民との協働により緑化を進めている現場を見学しました。取組を進めた若葉台もみじ花と緑推進会の方々から、緑化計画や活動の概要、感じている課題などについて説明を受けました。



敷地内の駐車場に新たに植栽



池を花壇として整備

<委員の感想や主な意見>

- 若葉台もみじ花と緑推進会の活動は工夫されており、継続されることを期待します。また、ホームページの広報活動はとても素晴らしいと思います。
  - 住民の方々の緑を作ろうという熱意に感動しました。緑をきれいに保つには、人手、お金、仕組みなど大変だと思いました。
  - 取組み自体は素晴らしいと思います。「みどりアップ計画」と表示したポップも確認できましたが、このポップの数を増やすことが市民の認知度を高めるのではないのでしょうか。
  - 広い花壇で今後も維持管理をするのが大変と思いました。推進委員会の皆様の苦勞に感謝します。今後のご活躍に期待します。
  - 推進会のメンバーの人数が少ないなかで、大変精力的に活動されていると感じました。陽当たりの課題もありますが、大きなエリアに今後、花と緑があふれる光景が実現出来るように頑張ってい頂きたいです。
  - 本地区では、大変良く取り組んでいると感じました。他の棟の方々もまねして始められるのではないのでしょうか。
  - 若葉台団地での取り組みは、古い団地としての新しい住民活動コミュニティガーデンのあり方の一例を見せていただいたように思います。さまざまな同じようなグループを見てきていますが、何よりも、会の方達の団結や和やかな活動の雰囲気がとても素晴らしく感じました。また、どこのマンション等にも一時期存在した噴水、水場の再利用、近隣の学校等の学生さんたちへの景観の配慮など至る所に皆さんの気持ちがこもった花壇作りと感じました。
- また、廃校を利用したスポーツ活動等の存在等、高齢になっても健康に自立して生活、住み続けられる街づくり、そしてそれが住民の方たちにも浸透、実行されている様子なども直接伺うことができました。

外側から見ると、車がないととても住みにくい場所という印象があったのですが、実際に住われている方が、とても住みやすい良いところだよ！とおっしゃった言葉がとても印象的でした。園芸作業だけではなく、時には一緒に会食をするなど、相互の交流も活発な様子でした。

○自治会の特別組織として花と緑の推進会があるので、維持管理も上手く行われていると感じました。特に「花と緑憩いの広場」には、のぼり旗や子供が描いた絵、看板には活動日や QR コードが貼ってあり、また推進会の Web ページと植栽植物など、その場でスマホ検索できる工夫が印象に残りました。

○メンバーの皆さんは意欲的で計画に邁進されている様子が良くわかりました。

○現状は、樹種等は手が掛かからないような選択はされているようでしたが、その面積が広く、伺った人数では、水やり、除草に追われる活動となり、花柄取り、花植え替え等に力が入れられないと思われました。

○今後進められる彩のプロムナード計画は、バス停近くの街路樹、また、奥地の学校の植栽とも続くことで一体感のある景観になるのではないのでしょうか。陽当たりも良くないとのことでしたので、高木に樹種根元に彩のある手のかからない常緑のツブキ等 2,3 種植樹しても季節感が感じられると思われそうです。

○会のメンバーの方の熱意に驚かされました。積極的な活動と、QR コードを活用したホームページなどの情報発信には感心させられました。緑地の改良や修繕において、地権が細かく分かれていることにもまた、勉強になりました。

○若葉台団地の緑化彩りプロジェクトはいろいろ学ぶことができました。2,3 年後の彩りプロムナードの整備後が楽しみです。高校生を巻き込んで管理出来たらいいけど。みどりアップ計画による取組がはっきりしていて良かったです。

○若葉台もみじ自治会の地域緑のまちづくり事業は、期待をもって見学させていただき、話を聞かせてもらいました。団地開発から 30 年が経過し、集会所の前の噴水やその水の流れる水路が使われなくなり、その跡地を使い、元の水路沿いを芝生広場にしたところを拠点的な緑化場所にしていました。

それからバス停留所までの歩行者通路に沿ってコキア(箒草)が植えられていましたが、日当たりが悪くて、成長が悪かったり、真っ赤になっていなかったりとまばらになっていました。バス停横の三角広場(駐車場の一部)は規模も大きく、面的には拠点的な緑化場所でしたが、植えられている植生にコンセプトが感じられず、手に余っている感じ。傍らで苗をつくっていましたが、カラスに種が食べられたりしているとのこと。苗床施設の導入を始め、専門家のアドバイスが必要と思いました。

また、星槎道路沿いの植栽帯は、奥行きがあるため植物の成長に伴い、管理に手間取ることも想定されました。全般的には、今の 30 人のメンバーだけで緑化や維持管理するのは困難で、もっとたくさんの担い手登場を促す仕掛けが重要だと感じました。



## 4 施策ごとの評価・提案

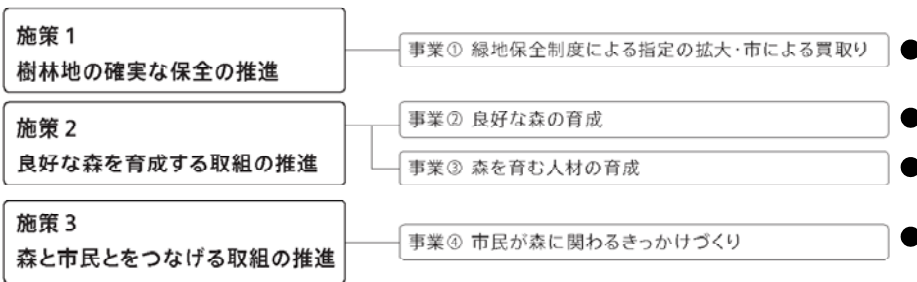
市民推進会議では、横浜みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑や花をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、横浜みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、横浜みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた使途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

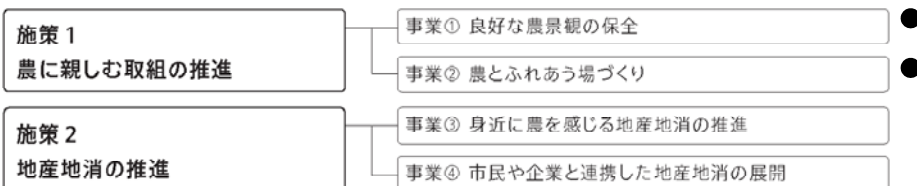
### ◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

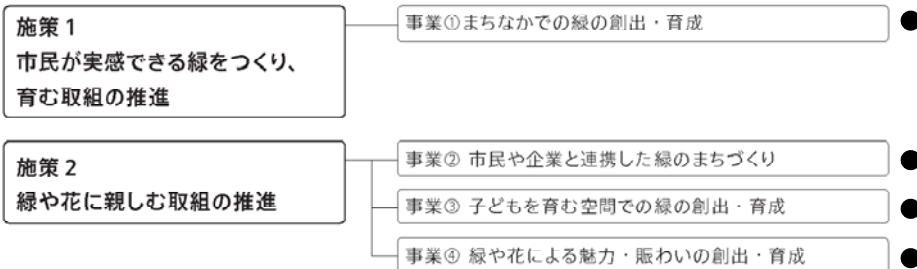
#### 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



#### 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



#### 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



#### 効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

## ◆各計画の柱のハイライト

2020年度の実施状況について、これまでの実施状況とあわせて振り返ります。

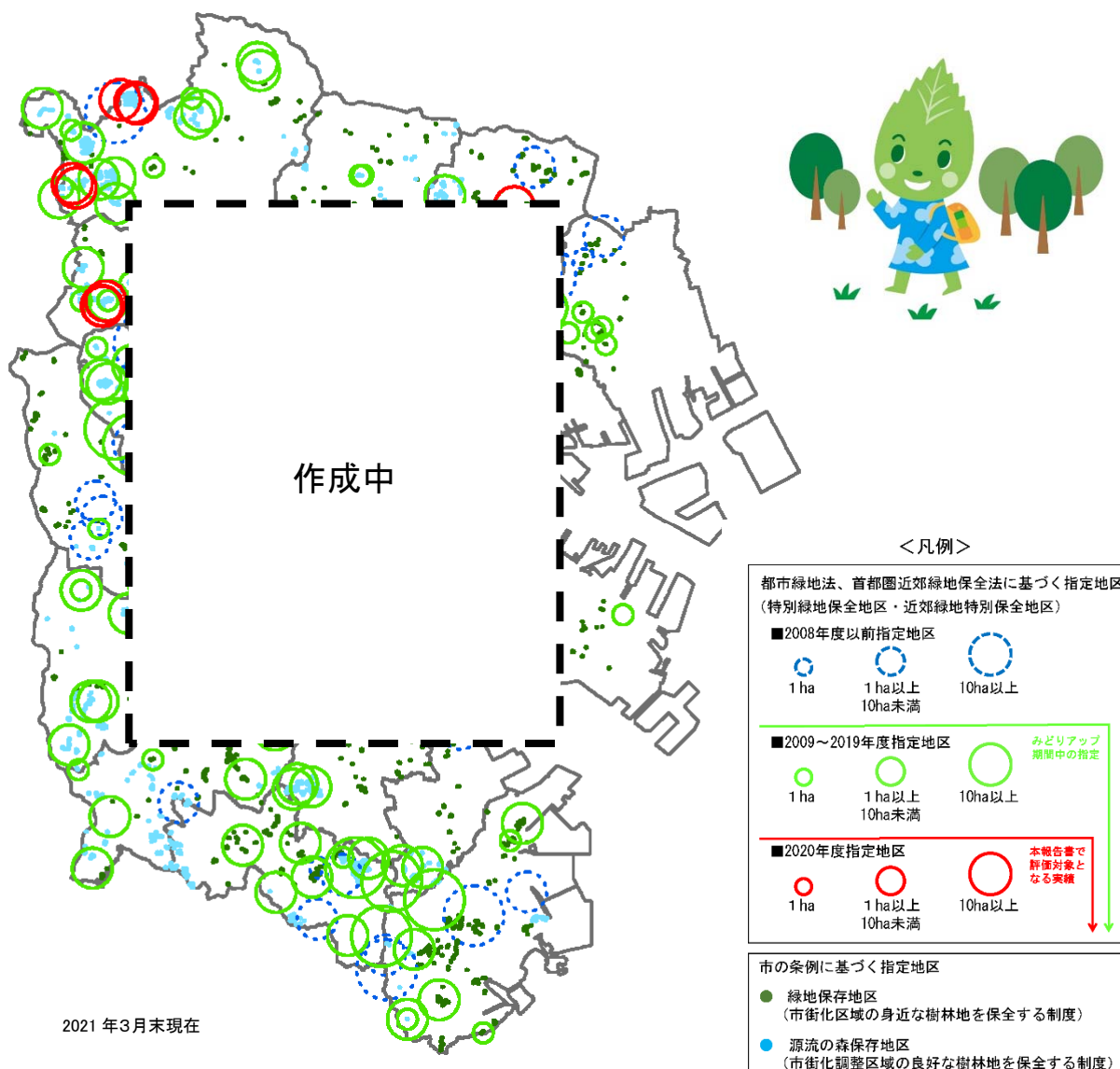


### 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

#### 緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009年度から2021年度の12年間で約〇〇〇ha、2021年度は〇〇〇ha指定されました。

#### <緑地保全制度による指定の状況>





## 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

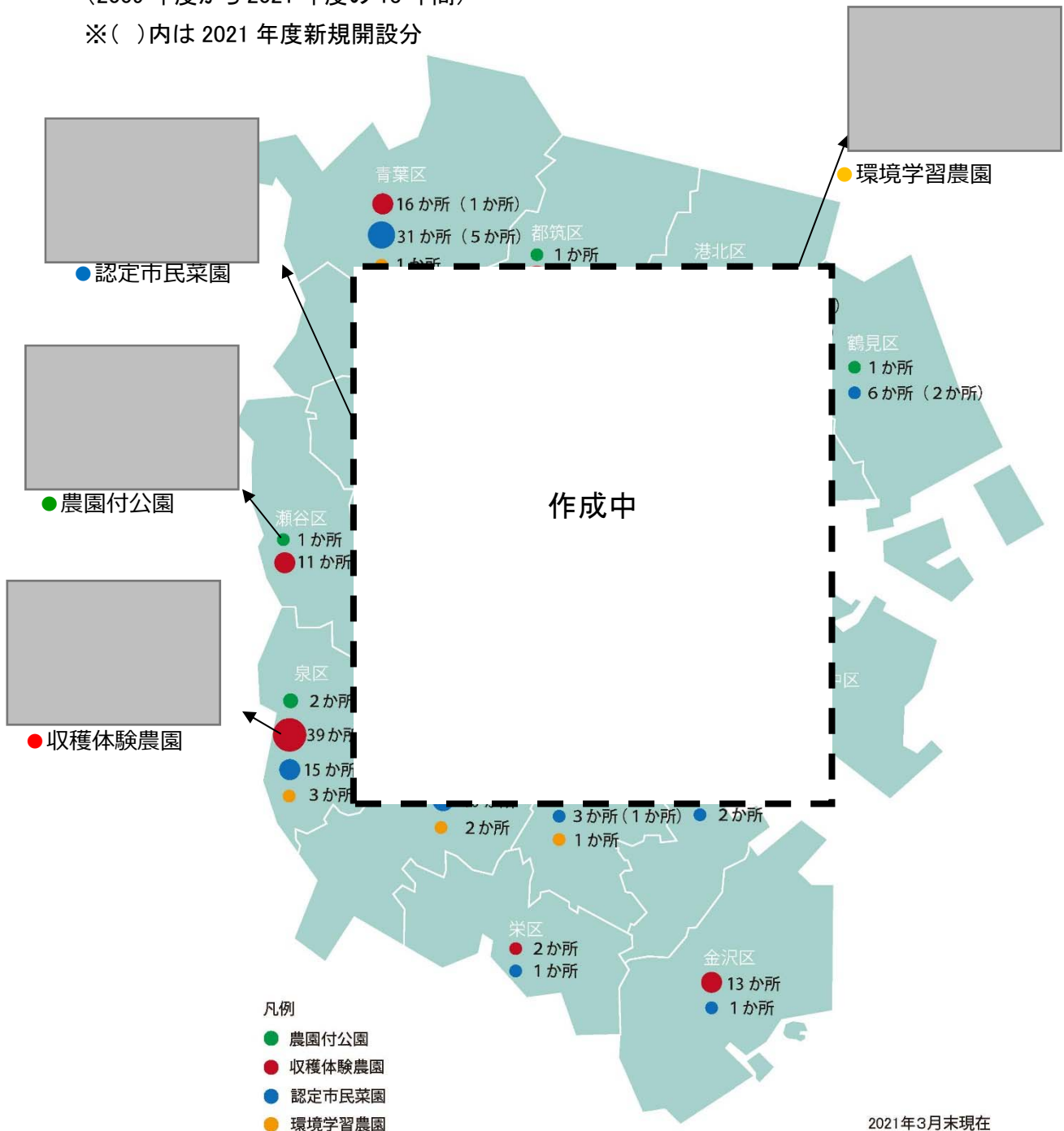
野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、区画割りされた農園で本格的な農作業が出来る認定市民菜園や農園付公園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。



### <農園の開設状況>

(2009年度から2021年度の13年間)

※( )内は2021年度新規開設分







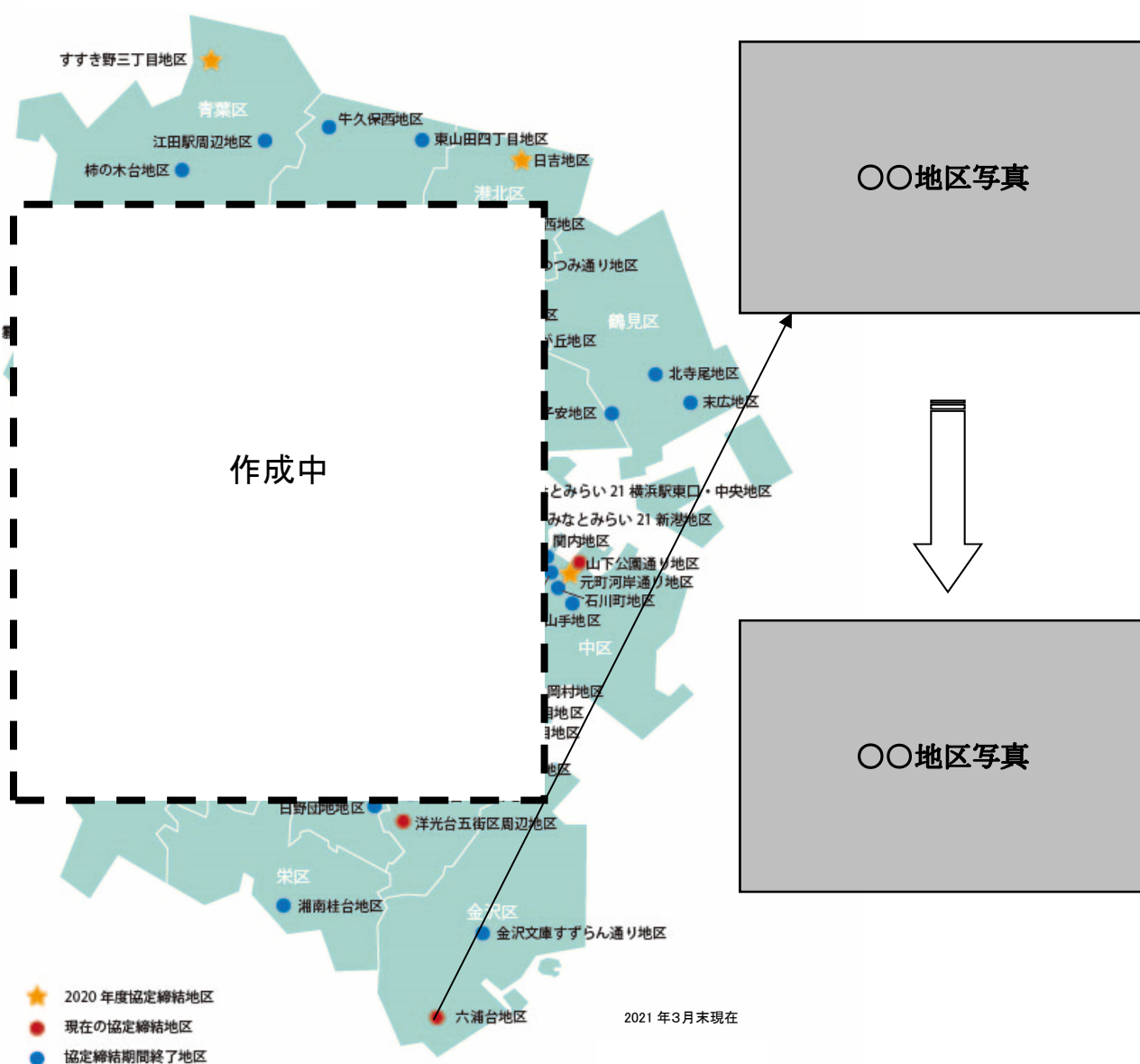
### 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

#### 緑のまちづくりが進んでいます

市内各地で様々な緑をつくる自主的な活動が行われ、2009年度から2019年度の12年間で市内〇〇地区において、魅力ある緑のまちづくりが進んでおり、2021年度は新たに〇〇地区で緑化の取組が進みました。



#### <地域緑のまちづくり実施地区一覧>



※横浜みどりアップ計画の詳細な実績については、「2020(令和2)年度 事業報告書」をご覧ください。

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori\\_up/jigyou\\_houkoku.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/jigyou_houkoku.html)

## ◆評価・提案の概要

「計画の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、〇〇。

「計画の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、〇〇。

「計画の柱3：市民が実感できる緑や花をつくる」については、〇〇。

「効果的な広報の展開」については、〇〇。

## (1)計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

### 施策1 樹林地の確実な保全の推進

#### 事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援する必要があります。そこで、緑地保全制度に基づく指定により土地所有者へ優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

#### ●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り				
緑地保全制度による新規指定	60ha	集計中		300ha
土地所有者の不測の事態等による土地の買取り	(想定)22.9ha			(想定)113ha
保全した樹林地の整備	推進			推進

2021年度の写真に更新します。

特別緑地保全地区に新規指定された緑地  
(瀬谷区阿久和南一丁目藤ヶ谷特別緑地保全地区)

緑地保全制度により買入れた緑地  
(保土ヶ谷区(仮称)今井・境木市民の森)

#### 市担当者からのコメント(環境創造局緑地保全推進課)

- 2019年度から新たな横浜みどりアップ計画に着手し、制度指定のメリットを土地所有者の皆様丁寧に説明しながら、新たな樹林地の指定に取り組みました。働きかけの対象となる未指定樹林地の小規模化に加え、昨年から続く新型コロナウイルス感染症により、指定の取組は非常に難しい状況が続いています。特に、昨年当初は土地所有者の皆様と直接お会いして働きかけを行いましたが、指定地区数としては2019年度の71地区に対し、2020年度は79地区を指定し、前年度を上回ったものの、指定面積は目標を下回る結果となりました。
- 一方、樹林地の買取りが進み市の管理地が増えるなか、特別緑地保全地区等の新たな指定にあたっては、傾斜地など地形の状況や接道などの周辺状況を踏まえ、適切な整備や維持管理が行える区域とすることが必要です。区域設定の調整や課題の検討には時間を要しますが、今後もまとまりのある貴重な樹林地を保全するため、粘り強く事業を進めていきます。

#### ◆施策1についての評価・提案

「森を育む」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

## ● 施策2 良好な森を育成する取組の推進

### 事業② 良好な森の育成

みどり税

#### ● 事業概要(計画書から抜粋)

生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など、森に期待される多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮し、愛護会や森づくりボランティア、企業等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めます。

また、樹林地を所有する方が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度による指定地における維持管理の負担を軽減するための支援を行います。

#### ● 実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進				
森の維持管理	推進	集計中		推進
取組(2) 指定した樹林地における維持管理の支援				
維持管理の助成	100件	集計中		500件



●事業概要(計画書から抜粋)

市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てます。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行います。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
<b>取組(1) 森づくりを担う人材の育成</b>				
森づくりを担う人材の育成	推進	集計中		推進
広報誌等での森づくり活動に関する情報発信	4回			20回
<b>取組(2) 森づくり活動団体への支援</b>				
森づくり活動団体への支援	30団体	集計中		150団体
森づくり活動団体への専門家派遣	4回			20回
チップの貸出し	推進			推進



#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 樹林地管理においては、特に樹林地外周部の斜面で、災害予防を目的とした剪定や伐採などを行いました。その意義や効果については、多くの方々にご理解をいただけるようになってきたと感じています。保善管理計画の策定や計画的な管理についても、愛護会とも連携しながら進められており、今後も作業成果の検証を行いながら、生物多様性や安全性など森の機能を高める管理を着実に進めていきたいと考えています。
- 樹林地維持管理助成事業は 2019 年度に発生した台風の影響により、多くの申請に対応しました。**2021 年度のコメントに更新します。**等の被害が増加しているなかで、土地所有者の維持管理への負担感軽減により効果のある取組とするため、2020 年度から復旧作業に対する支援を拡充しました。今後も台風などの災害から樹林地を守っていくための一助として、土地所有者の方にこの助成の活用を呼びかけたいと思います。
- 「よこはまの森ニュースレター」では研修や支援制度の紹介、愛護会や森づくり活動団体の活動紹介などを行っています。今後、さらに活動の楽しみの幅が広がるよう、森づくり活動に必要な安全管理の知識や、森づくり体験会を実施した樹林地の林床にどんな変化をもたらされたのかななどの情報提供を行っていきます。

#### ◆施策2についての評価・提案

「森を育む」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討



### 施策3 森と市民をつなげる取組の推進

#### 事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

横浜の森について理解を深め、さらには行動につなげるため、森に関するイベントや講座の開催により、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、市内5か所にあるウェルカムセンターの活用などにより、情報発信等に取り組みます。

#### ●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の楽しみづくり				
市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施	36回	集計中		180回
取組(2) 森づくり活動団体への支援				
ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等	10回	集計中		50回

2020年度  
～森の楽しみづくり イベントの内容～

- ・よこはま森の楽校
- ・森の中のプレイパーク
- ・クラフト教室
- ・自然教室(昆虫観察会) など



2021年度の写真に更新します。

森の中のプレイパーク「めざせ名探偵！  
森のパズルを解き明かせ！」の様子  
(中区本牧山頂公園)



保全林



保全林



よこはま森の楽校の様子(Zoomにて開催・スライド資料)  
(都筑区東京都市大学田中章研究室)





2021年度の写真に更新します。

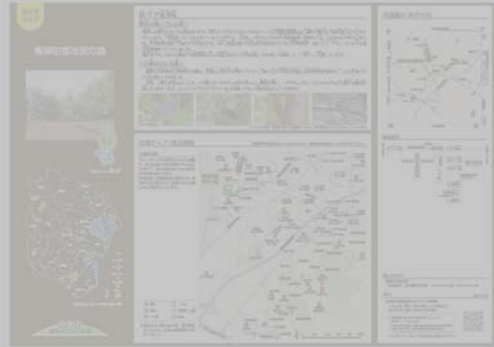
### インタープリター養成講座 について

市内に残るみどりの大切さを  
広く知っていただくため、横浜  
の森の魅力や役割を、単なる  
情報提供だけではなく、直接体  
験や教材を通して、効果的に伝  
える技術や知識を学ぶ講座で  
す。

インタープリター養成講座の様子  
(緑区新治市民の森)



ウェルカムセンターイベント  
「植物ずかん作り教室」の様子  
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)



長津田宿市民の森ガイドマップ

**市担当者からのコメント(環境創造局みどリアップ推進課)**

- 森の楽しみづくりとして、市内各地にある樹林地や緑を活用した自然観察イベント等を実施しました。森の楽校のキャンパスイベントについては、対面式のイベントが新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったため、開催方法については検討を重ね、初の試みとしてWEB参加形式で実施しました。市内小学生を対象に図書館及び、公園で実施したイベント(森の中のプレイパーク)でも市民の森やふれあいの樹林などの自然観察や散策のできる樹林地が市内には数多くあることを紹介し、樹林地で過ごす時間の魅力を感じる機会を提供しました。
- **2021年度のコメントに更新します。** コロナ禍での生活様式の変化から、市民の樹林地に対する関心は高まっており、ウェルカムセンターには多くの方が来館され、イベントも毎回たくさんのお申込みをいただいています。これまで関心の無かった方にも樹林地を訪れてもらう機会が増えた一方で、利用マナーをご存知ない方も一部いらっしゃいます。今後はイベント等の楽しみづくりと共にマナーの普及啓発も着実に進める必要があると考えています。
- 今年度は、「長津田宿市民の森ガイドマップ」を新たに作成しました。広域マップ部分には周辺情報も盛り込み、付近にある公園やみどり等も一体的に楽しめるよう、工夫しています。より身近なみどりに関心が高まってきていますので、ガイドマップをきっかけに、市民が気軽に森を訪れることができるよう、これからも工夫していきます。

**◆施策3についての評価・提案**

「森を育む」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

望月 正光



## (2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

### 施策1 農に親しむ取組の推進

#### 事業① 良好な農景観の保全

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。農業専用地区に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などにより農地を維持する取組を支援します。

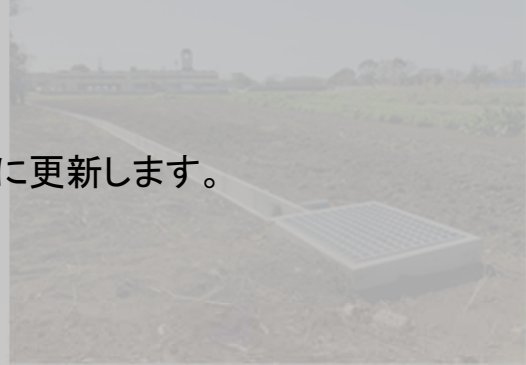
#### ●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標	
	目標	実績			
<b>取組(1) 水田の保全</b>					
水田保全面積	125ha	集計中		125ha	
水源・水路の確保	2か所			10か所	
<b>取組(2) 特定農業用施設保全契約の締結</b>					
特定農業用施設保全契約の締結	制度運用			制度運用	
<b>取組(3) 農景観を良好に維持する活動の支援</b>					
まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援	集団農地維持面積		705ha		730ha
	農地縁辺部への植栽		11件		55件
	井戸の改修		2地区		5地区
	土砂流出防止対策	3件		15件	
周辺環境に配慮した活動への支援	牧草等による環境対策	4ha		20ha	
	たい肥化設備等の支援	5件		25件	
<b>取組(4) 多様な主体による農地の利用促進</b>					
遊休農地の復元支援	0.3ha			1.5ha	

2021 年度の写真に更新します。



保全された水田(戸塚区舞岡町)



整備された水路(泉区下飯田町)



土砂流出防止対策を実施した農地  
(都筑区東方町)



まとまりのある農地への景観植物の植栽  
(旭区都岡地区恵みの里)



●事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を市内各地で進めます。

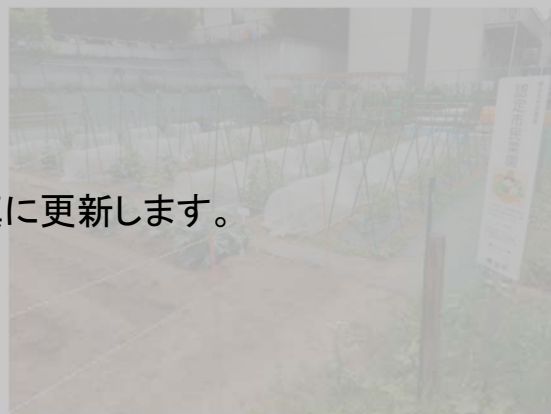
また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会の提供や、農家への援農活動を支援します。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
<b>取組(1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設</b>				
様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	4ha	集計中		22.8ha
うち 収穫体験農園の開設支援	1.5ha			(7.5ha)
うち 市民農園の開設支援(栽培収穫体験ファーム・環境学習農園・認定市民菜園)	2ha			(10ha)
うち 農園付公園の整備	0ha			(5.3ha)
<b>取組(2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進</b>				
横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施	90回			450回
市民農業大学講座の開催(1年次の講座回数)	20回			100回
家族で学ぶ農体験講座の開催	6回			30回



2021年度の写真に更新します。



開設支援した収穫体験農園  
(保土ヶ谷区川島町)

開設支援した認定市民菜園  
(青葉区新石川)





恵みの里の農体験教室  
(緑区新治町)



家族で学ぶ農体験講座  
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)

2021年度の写真に更新します。

#### 市担当者からのコメント(環境創造局農政推進課・みどりアップ推進課・環境活動支援センター)

- 水田保全に関する事業では、保全期間10年が満了した土地所有者に更新手続きをお願いしていますが、高齢化が進み、10年後の耕作状況まで見通せないと更新を辞退される方が増えていて、目標の達成に困難を感じています。一方、水稻を作付していながら申し出いていない土地所有者も少数ながらいらっしゃるため、個別に事業の趣旨を説明するなど粘り強く働きかけ、新規に1.2haを保全することができました。
- 市民農園の事業では、小中学校の児童が農家の指導により農作業を体験できる環境学習農園において、新型コロナウイルス感染症対策による学校の休校措置やイベントの人数制限対応などにより、園主から「児童への指導を例年通りに実施することができず苦労している」などの意見が寄せられています。2021年度のコメントに更新します。新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態の中での対応に、農家の方とともに悩みました。
- コロナ禍において、密にならずに農とのふれあいを楽しむことができる場として、農園利用についての問合せが増えています。市民の皆様のニーズに応えられるよう、引き続き、農園付公園の開設に向けて整備を進めていきます。
- ふるさと村や恵みの里の事業では、市民の皆様に農体験を楽しんでいただくため、農家の方々が熱心に準備を進めましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で約60件のイベントを中止することになりました。それでも、農家の方の相談に乗り、いっしょに感染症対策を工夫しながら、2020年の夏以降は多くのイベントを企画し開催することができました。
- 恵みの里が実施する収穫体験などのイベントに対して、例年を大きく上回る申込みがあったことや、市民農園の利用に関する問合せの増加など、コロナ禍の生活様式の変化に伴い、横浜の農業への関心や農体験のニーズが高まっていることを実感しています。

◆施策1についての評価・提案

「農を感じる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討





## 施策2 地産地消の推進

### 事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

身近に市内産農畜産物や加工品を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。

そこで、「横浜農場<sup>\*</sup>の展開」による地産地消を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PR活動を推進します。

※横浜農場：食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場と見立てた言葉

#### ●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1)	地産地消にふれる機会の拡大			
直売所・青空市等の支援	57件	集計中		285件
緑化用苗木の配布	25,000本			125,000本
情報誌などの発行	6回			30回



## 事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

### ●事業概要(計画書から抜粋)

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力伝える活動を行う野菜ソムリエや料理人などが増え、市民や企業、学校など農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図り、「農のプラットフォーム」を充実するとともに、農と市民・企業等が連携した「横浜農場の展開」を推進します。

### ●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標	
	目標	実績			
<b>取組(1) 地産地消を広げる人材の育成</b>					
はまふうどコンシェルジュの活動支援等	30件	集計中		150件	
地産地消ネットワーク交流会の開催	1回			5回	
<b>取組(2) 市民や企業等との連携</b>					
市民や企業等との連携	10件			50件	
ビジネス創出支援	4件			16件	
学校給食での市内産農産物の一斉供給	推進			推進	
料理コンクールの開催	1回		5回		



**市担当者からのコメント(環境創造局農業振興課)**

- 今年度は、株式会社ルミネ及び横浜銀行と連携した、ニューマン横浜における「横浜地産地消フェア」の開催や、JA横浜と連携した市庁舎での横浜野菜の直売など、新たな地産地消の取組を企業等との連携により実現することができました。これらの取組を通じて、より多くの方に横浜で営まれている農の魅力を感じていただくことができました。**2021年度のコメントに更新します。**皆様が身近に農を感じられる取組を進めていきたいと思えます。
- はま菜ちゃん料理コンクールにおいて電子申請を活用した応募方法に変更したり、地産地消ビジネス創出支援事業の講座をオンラインで実施するなど、新型コロナウイルス感染症対策として、柔軟な対応を取り入れることにより、コロナ禍でも円滑な事業実施を行うことができました。

**◆施策2についての評価・提案**

「農を感じる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

内海 宏

### (3)計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

#### 施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進 .....

##### 事業① まちなかでの緑の創出・育成


みどり税

##### ●事業概要(計画書から抜粋)

多くの市民の目にふれる場所での緑化や目にする機会の多い街路樹を良好に育成するための取組、地域で古くから親しまれている名木古木の保存など、市民が実感でき、生物多様性の保全に寄与し、地域の良好な景観形成や賑わい創出につながる緑の創出・育成を推進します。

##### ●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
<b>取組(1) 公共施設・公有地での緑の創出・育成</b>				
緑の創出	7か所	集計中		36か所
緑の維持管理	推進			推進
<b>取組(2) 街路樹による良好な景観の創出・育成</b>				
並木の再生	2路線	集計中		10路線
空き枿の補植	推進			推進
良好な維持管理	18区で推進			18区で推進
<b>取組(3) シンボリックな緑の創出・育成</b>				
公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理	推進	集計中		(想定) 継続2か所、 新規2か所
公開性のある緑空間の創出支援	推進			(想定)10か所程度
<b>取組(4) 建築緑化保全契約の締結</b>				
建築物緑化保全契約の締結	制度運用	集計中		制度運用
<b>取組(5) 名木古木の保存</b>				
名木古木の保存	推進	集計中		推進



2021 年度の写真に更新します。

公開性のある緑空間の創出支援  
(西区神奈川大学みなとみらいキャンパス)

名木古木の新規指定(戸塚区)

#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 並木の再生では、市内の6路線について、老木化した桜並木などの地域に愛されている街路樹の更新を進め、2路線の整備が完了しました。安全性が高まり、地域に親しまれている緑の景観の維持につながっています。
- 公開性のある緑空間の創出支援事業では、2件の緑化支援が進められました。そのうちの一つ、神奈川大学みなとみらいキャンパスは、人が集い・行き交う地区での事例となり、本事業の趣旨に沿ったシンボリック事例になるのではないかと考えています。引き続き、多くの市民の皆様実感される緑をつくれるよう、取組を進めていきます。

2021 年度のコメントに更新します。

◆施策1についての評価・提案

「緑をつくる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討





## 施策2 緑や花に親しむ取組の推進

### 事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や企業と連携した取組が不可欠です。地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する取組など、緑の創出・育成に積極的に取り組む市民や企業を支援し、市民の生活の身近な場所で、緑や花に親しむきっかけづくりを推進します。

また、第33回全国都市緑化よこはまフェアなど、これまで多くの市民や企業の協力で展開された各区での緑や花に親しむ取組を、引き続き推進します。

#### ●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 地域緑のまちづくり				
地域緑のまちづくり	新規6地区	集計中		新規 30 地区
取組(2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり				
緑や花を身近に感じる各区の取組	18区で推進	集計中		18区で推進
地域の花いっぱいにつながる取組	推進			推進
取組(3) 人生記念樹の配布				
人生記念樹の配布	8,000本			40,000本配布

2021年度の写真に更新します。

創出された民有地の緑化  
(旭区若葉台もみじ自治会周辺地区)  
【地域緑のまちづくり】

緑化活動(花壇の花植え)  
(港北区綱島西地区)  
【地域緑のまちづくり】

●事業概要(計画書から抜粋)

次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多く時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成				
緑の創出	20か所	集計中	100か所	
緑の維持管理	推進		推進	



●事業概要(計画書から抜粋)

第33回全国都市緑化よこはまフェアには、多くの人が訪れ、緑や花が人を呼び込み、街の賑わいを創出しました。多くの市民が時間を過ごし、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部などにおいて、これらの取組を継承し、公共空間を中心に緑や花による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力や回遊性の向上・賑わいづくりにつなげます。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 都心臨海部等の緑花※による魅力ある空間づくり				
緑花による空間づくりと維持管理	推進	集計中		推進

※緑花(りよくか)とは・・・樹木や芝生などの「緑」と四季折々の彩(いろどり)としての「花」を組み合わせて植栽することで、街の魅力形成や賑わいづくりを行うものです。



#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 地域緑のまちづくり事業では、新型コロナウイルス感染症に対応するため、地域団体の活動が難しい状況を鑑みて、募集時期の変更、提案団体への個別事業説明を実施しました。提案団体には、地域緑化計画策定に向けた支援を行い、2020年度は4団体が選考を通過しました。市民生活に身近な多くの地区で、こうした緑のまちづくりの機運が高まっていると感じています。また、協定締結期間が終了する団体からも、活動をきっかけとして地域に緑や花が増えたという喜びの声や、まちなかの緑化を通じてこれまで交流のなかった高齢者と子どもなど、地域での新しいつながりが生まれたなどの声が寄せられました。
- 子どもを育む場である保育園・幼稚園・小中学校における園庭・校庭の芝生化では、管理方法についてアドバイザーを派遣するなど、創出した芝生が適切に管理できるよう支援を実施しています。また、ピオトープの再整備の取組では、専門家を派遣して整備計画づくりや維持管理、授業での活用法のアドバイスを行っています。子どもたちはいきいきとピオトープや地域の生き物について学び、計画づくりや整備、利用のルールづくりなどに取り組んでおり、学校の総合学習などの機会において効果的に活用されています。
- 緑花による魅力ある空間づくりとして、山下公園や日本大通りなどの都心臨海部での取組を続けています。また、こども自然公園などの都市公園、ガーデンネックレス横浜での里山ガーデンなど、花や緑による空間演出や質の高い維持管理を展開し、多くの市民が訪れる場所での魅力向上や賑わいづくりにつなげました。

2021年度のコメントに更新します。

#### ◆施策2についての評価・提案

「緑をつくる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

池邊 このみ



## (4)効果的な広報の展開

### 事業① 市民の理解を広げる広報の展開

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開します。

#### ●実績

2021 年度	
目標	実績
広報よこはま等の広報紙への記事掲載	集計中
実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧	
広告、動画等の各種メディアを活用したPR	
ホームページの充実	
メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信	
緑に関するイベントでのPR	
取組に基づいて実施したことを示す現地表示(プレート)	

※市民推進会議による広報企画としては、広報誌「Yokohama みどりアップ Action」を2号編集・発行。(詳細は7頁「③広報・見える化部会」参照)





広報よこはまへの取組実績の記事掲載  
(市版 11月号)



PR動画を活用した広報  
(横浜市役所アトリウム)

2021年度の写真に更新します。



市営地下鉄車内での動画放映



緑に関するイベントでのPR  
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)



線路沿いでの現地表示看板の設置  
(保土ヶ谷区権太坂特別緑地保全地区)

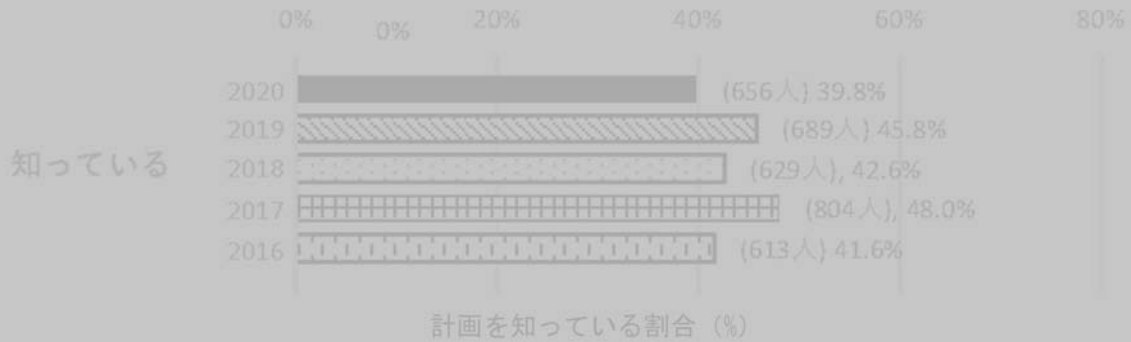


ガーデンネックレス横浜での現地表示  
(みなとエリアの花壇)

Q.「横浜みどりアップ計画」をご存知ですか？

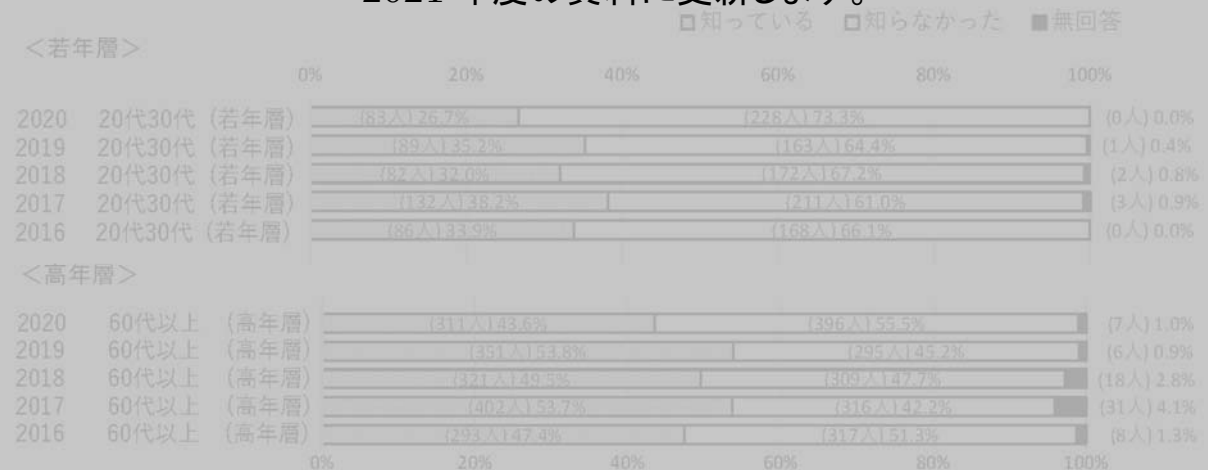
計画を知っている割合は4割台で推移。

2020年度は、39.8%が知っている と回答



計画を知っている割合は、高年層で高く、若年層で低い傾向が続いている。

2021年度の資料に更新します。



※「知っている」は、「取組内容を知っている」、「あることを知っている」、「名称を見たことや聞いたことがある」の計

『「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査』等の調査結果より

#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 横浜みどりアップ計画の実績については、リーフレットを作成し自治会・町内会へ説明を行うほか、広報よこはま市版に記事掲載を行い、広く市民へ実績が伝わるよう努めました。
- また、2020年度にオープンした横浜市役所アトリウムで、緑や花が美しく育っているイメージ動画を大型ディスプレイで放映を行い、横浜みどりアップ計画の取組成果をPRしました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止されるなどPR機会が縮小となる一方で、身近な花や緑が見直され、市民の森や公園が多くの方に利用されました。この機をとらえ、横浜みどりアップ計画の取組がより多くの方の目に留まるよう、現地表示やホームページ、動画PRなどを強化し、より充実した広報を進めていきます。

◆施策についての評価・提案

広報・見える化部会で評価・提案内容を検討

広報・見える化部会 部会長コメント

.....

高田 房枝



## 5 市民推進会議委員名簿

### 横浜みどりアップ計画市民推進会議 名簿(2022年6月時点)

(50音順・敬称略)

	氏名	区分	備考
副座長	網代 宗四郎	関係団体	横浜市町内会連合会 会長
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	奥井 奈都美	公募市民	
	小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	国吉 純	公募市民	
座長	進士 五十八	学識経験者	東京農業大学名誉教授・元学長
	高田 房枝	公募市民	
	高橋 秀忠	公募市民	
	野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
	村松 晶子	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授

<施策別専門部会 名簿>

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
網代 宗四郎	関係団体	横浜市町内会連合会 会長
岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
奥井 奈都美	公募市民	
高橋 秀忠	公募市民	
部会長 望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
部会長 内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
村松 晶子	公募市民	

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
部会長 池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
国吉 純	公募市民	
高田 房枝	公募市民	

## 広報・見える化部会 名簿

(50音順・敬称略)

部会長

氏 名	区 分	備 考
奥井 奈都美	公募市民	
国吉 純	公募市民	
高田 房枝	公募市民	
高橋 秀忠	公募市民	
村松 晶子	公募市民	
望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授



## 6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、緑について日ごろ各委員が感じたことについて、委員の皆さまからもコメントをいただきました。

委員ごとにコメントをいただきます。

## 7 市民推進会議広報誌(再録)

### 「YokohamaみどりアップAction」(2021年度発行分)

#### 第5号 2021年11月発行

農園付公園

(泉区 岡津町ふれあい公園)

#### 第6号 2022年2月発行

地域緑のまちづくり事業

(西区 みなとみらい21新港地区運河パーク花時計)

# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.5  
2021.11



農園付公園に  
行ってみよう。

横浜みどりアップ計画





① 岡津町ふれあい公園 ② アドバイスをする栽培相談員 ③ 団体区画利用の保育園児

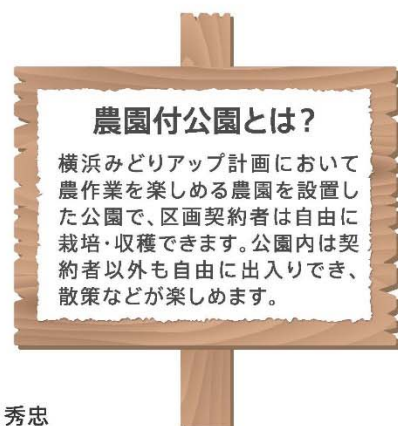
## 農園付公園で 野菜づくりをはじめませんか？

梅雨明け間もない晴天の7月、泉区緑園都市に近い「岡津町ふれあい公園」を訪問しました。

公園といっても中央に広がるのは農園、そして周りを囲む樹林。

ここには、子どもや高齢者、障害のある方、

誰もが野菜や土に親しめるきっかけがありそうです。 文：奥井 奈都美、高橋 秀忠



### 農園付公園とは？

横浜みどりアップ計画において農作業を楽しめる農園を設置した公園で、区画契約者は自由に栽培・収穫できます。公園内は契約者以外も自由に入出りでき、散策などが楽しめます。



### 自分だけの畑で 自分なりの野菜づくり

農体験ゾーンの団体区画で最初にあったのは、かわいい利用者さん。地元保育園の園児でした。ちょうど収穫にきたところで、手に持っている野菜を見せてもらおうと、ピーマン、トマト、ナス、ししとうと色鮮やかな夏野菜でした。「どんな野菜が好き？」という問いかけに、意外にも「ピーマン！」という元気な声。保育園では収穫した野菜を調理し、給食として食べているそう。みんな自分の手で育てた野菜の美味しさをよく知っているんですね。

2年以上個人区画を利用しているという方にも畑を見せていただくと、こちらも立派なトマト、ナス、オクラが育っていました。話を聞くと、せっかく美味しそうに育ったトウモロコシを、ハクビシンに食べられてしまったとのこと。畑の周りをしっかりと網で囲って獣害対策をしていました。



### 初めてでも 誰でも楽しめる！

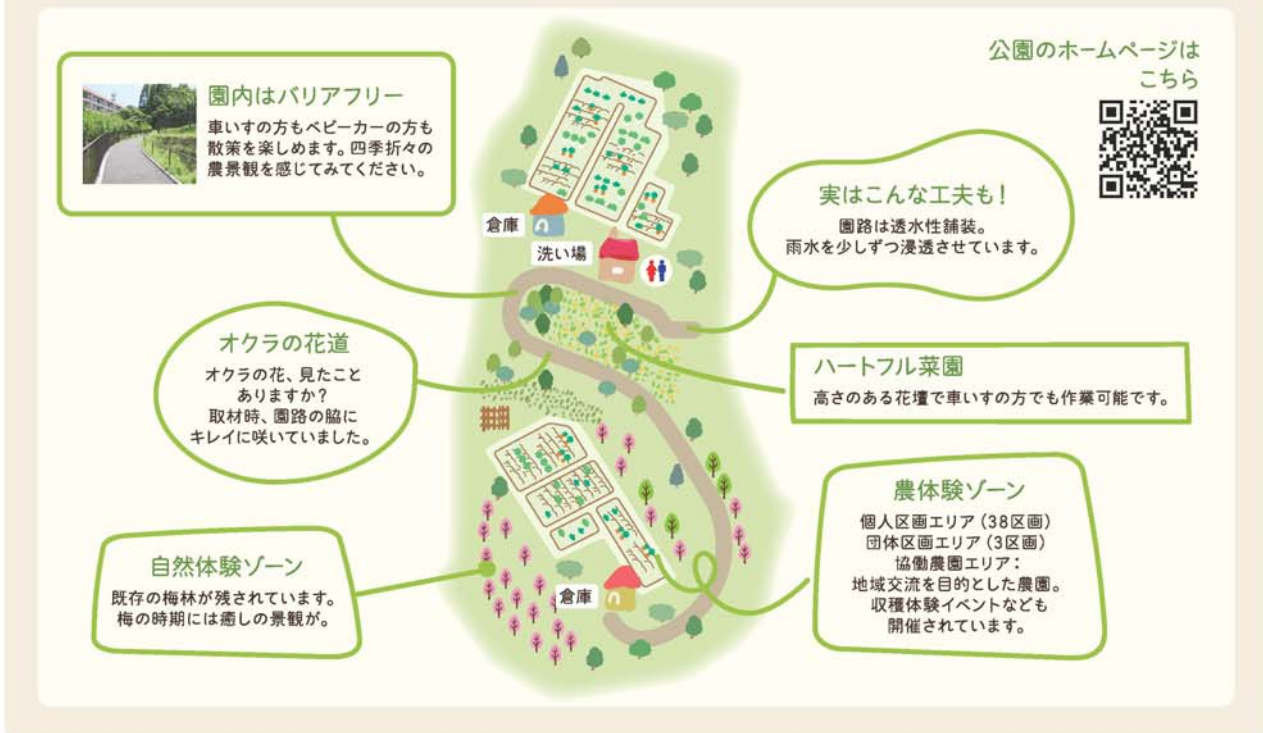
公園にいる指定管理者の栽培相談員が、土づくりをはじめ、植付けから収穫までの野菜の育て方を定期的にアドバイスしてくれます。クワやスコップ、ジョウロ、バケツなどの道具の無料貸出しや土の酸度を測定するサービスも。菜園活動をサポートしてもらえます。

園内には、車イスのままでも野菜づくりが楽しめる「ハートフル菜園」もありました。ここでは近隣の特別養護老人ホームと協働で野菜づくりをしているそうです。





## 岡津町ふれあい公園の案内図



① 栽培相談員と談笑する利用者 ② ハートフル菜園で植え付けする利用者 ③ 協働農園では地域の方と農作業も



### 公園×野菜づくり＝ 地域交流?!

この公園を管理しているのは、横浜に根差して130年の歴史を持つ種苗会社。利用者の皆さんは専門の会社から種や肥料を注文することもできるので安心ですね。ここでは「はまっ子ユキ」という、市内の公園緑地や街路樹の管理で出た剪定枝や刈草をリサイクルした環境にやさしい堆肥を提供していました。

感染症が流行する前は、近隣の特別養護老人ホームと連携しながら、農園で採れた野菜を使ってBBQや焼き芋をして、地域の皆さんとの交流を図っていました。再開を楽しみに待っている人もきっと多いことでしょう。



### ここにみどり税

みどりアップ計画では、市民が身近に農体験ができる公園として、農園付公園を設置しています。公園整備に横浜みどり税を使っています。

横浜みどりアップ 葉っぴー





# 市内の農園のある公園



農園のある公園は市内に14か所あり、初心者からベテランの方までたくさんの方が野菜づくりを楽しんでいます。園内を散策することもできますので、まずはお近くの公園に足を運んで農を感じてみてはいかがでしょうか。



## 市内の農園のある公園

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ① 大柵杉の森ふれあい公園  | 都筑区大柵町472-1    |
| ② 若草台第二公園      | 青葉区若草台6-1      |
| ③ 師岡町梅の丘公園     | 港北区師岡町511-3    |
| ④ 東寺尾一丁目ふれあい公園 | 鶴見区東寺尾1丁目66-1  |
| ⑤ 菅田町赤坂公園      | 神奈川区菅田町222-1   |
| ⑥ 仏向原ふれあい公園    | 保土ヶ谷区仏向町1252番1 |
| ⑦ 南本宿公園        | 旭区南本宿町37-4     |
| ⑧ 南本宿第三公園      | 旭区南本宿町81-3     |
| ⑨ 阿久和富士見小金台公園  | 瀬谷区阿久和東2丁目61-1 |
| ⑩ 今井の丘公園       | 保土ヶ谷区新桜ヶ丘1丁目42 |
| ⑪ 岡津町ふれあい公園    | 泉区岡津町2623      |
| ⑫ 泉が丘公園        | 泉区和泉が丘3丁目6     |
| ⑬ 和泉アカシア公園     | 泉区下和泉1丁目8      |
| ⑭ 深谷町ふれあい公園    | 戸塚区深谷町1272-5   |

☆区画の空き状況、利用料金等については、各公園の指定管理者にお問い合わせください。(各公園のホームページも参考にしてください)

## 市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。「農」をテーマにレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!



### 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

### 横浜みどりアップ計画市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

### Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!  
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



### ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



### YokohamaみどりアップAction 第5号

(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第40号) 令和3年11月発行

編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会  
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

### 問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)  
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093  
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp





横浜みどりアップ計画  
市民推進会議広報誌

# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.6  
2022.02

みどりがつなぐ  
活動のバトン







① 興味をもった保育園児も参加

## レガシーつなぐ花時計



みなとみらい地区の運河パークに丸い花時計(日時計)があります。これは、2009年に開催された「開国博Y150」を祝して、横浜青年会議所と市内企業を中心とする実行委員会により開国博入り口前に作られました。当時は30m×40mの大きなものでしたが、終了後の撤去を惜しむ声があがり、市民団体が維持管理を引き継いで、モニュメント周辺部分に縮小して存続しています。10年以上にわたって、市民団体の方々による緑のまちづくりの活動として、ボランティア参加の市民とともに花時計を育んできました。 文: 国吉 純、村松 晶子



### 花時計に関わる 多くの人々の協力

現在、花時計は「NPO法人横浜移動サービス協議会」によって維持管理されています。開国博時の幹事会社や公益財団法人横浜市緑の協会の支援をもとに活動を進め、「一般社団法人横浜みなとみらい21」からはタネや苗の支援をしています。隣接するホテルは、当初より協力いただき駐車場に園芸道具の収納場所を提供。それによって重い道具等を自宅から持っていく必要がなくなりました。今後、ロープウェイで乗降する観光客の方達とのワークショップの開催など、周辺の企業ともいろいろな連携ができることを期待しています。



### だれでも参加できる 花壇の手入れ

月2回の作業日には、近隣の自治会や福祉作業所、保育園の子供たちが植替えや水やりに来ています。作業日以外にも水やりなど、気づいた時に手入れをしているそうです。車椅子の方々には貴重な屋外活動であり、子供たちにとっては車椅子の方と交流する機会ともなっています。花壇の手入れをしていると、通りすがりの人が手伝ってくれることもあります。花の好きな人には土に触れることができる魅力的な場です。「花壇のボランティアはいつでも大歓迎!」とのこと。



### 花時計から未来へ

2021年4月に桜木町駅から花時計のあるところまでロープウェイが開業。この花時計の花壇と活動の様子をロープウェイを利用する方々、そして駅から散策する方々の目にとまる機会が増えました。今後は、関内駅からこの花壇までの道のりを新たに花のアプローチで繋ぐ企画を考えているそうです。これによって駅と駅、花と花、そして人と人との繋がりがさらに発展していくことになるでしょう。

開国博の記憶とみなとみらいのシンボルとして、企業、市民、行政が協働して美しい花壇を続けていってほしいと願っています。



### ここにみどり税

地域緑のまちづくり事業では、「緑や花でいっぱい街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画づくり、花や木の植栽、維持管理などにみどり税を活用して、緑のまちづくりに地域と協働で取り組んでいます。

横浜みどりアップ 葉っぱー







②、③維持管理活動の様子 ④花壇に咲くマリーゴールド ⑤多くの人の目に留まる立地  
⑥園芸道具 ⑦花時計を中心に自然と交流が生まれる

## みなとみらい21新港地区の 地域緑のまちづくり

みなとみらい21地区などの都心臨海部では、これまでも様々な場所で地域が連携して緑や花によって街を彩る取組が進められています。緑や花で彩られたみなとみらいにぜひお越しください。



①アニヴェルセルみなとみらい横浜(16街区)での緑化 ②マリン&ウォーク横浜(4街区)での緑化  
③グランドオリエンタルみなとみらい(11-2街区)での緑化 ④新港中央広場(8街区)での緑化





# 地域緑のまちづくり 実施一覧

旭区 若葉台もみじ自治会周辺地区



磯子区 洋光台五街区周辺地区



港北区 綱島西地区



中区 山下公園通り地区



- ★ 2020年度協定締結地区
- 2019年度協定締結地区
- 協定締結期間終了地区

2021年4月現在

地域緑のまちづくりについてはこちら

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori\\_up/3ryokuka/chiikimidori/chiikimidori2.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/3ryokuka/chiikimidori/chiikimidori2.html)  
 問合せ先: 横浜市環境創造局みどりアップ推進課(緑化推進担当) 電話番号: 045-671-3447 E-mail: ks-ryoka@city.yokohama.jp



## 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

## Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!  
 ※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

## ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



**YokohamaみどりアップAction 第6号**  
 (旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第41号) 令和4年2月発行  
 編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会  
 発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ  
 横浜市環境創造局政策課(事務局)  
 TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093  
 E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp





横浜みどりアップ 葉っぴー

2022年〇月発行  
横浜みどりアップ計画市民推進会議